

## 第2回 王寺町義務教育学校設置検討懇話会 意見概要

日時：平成28年7月29日（金） 午後3時～午後5時15分

会場：王寺町やわらぎ会館3階 小会議室2

### ・義務教育学校（2校の校区割・児童生徒数）

- 具体的に現在の中学校区に当てはめた、児童生徒数のバランスで区切った案が示された。これを見て皆さんの率直なご意見を伺いたい。
- 現在の人口バランスだけでなく、5年後10年後の人口バランスを見据えていかなければならない。
  
- 校区割りによる児童生徒数のバランスは、どこまで必要なのかを考えないといけないのではないか。
  
- 通学の距離についても考えないといけないのではないか。特に緑ヶ丘や送迎は、かなりの距離だと思う。
  
- それを含めて、校区割りの検討で解消されるのではないか。
  
- 私は送迎に住んでいて、(私の)子ども達は王寺小学校に通っていたが、あれ位の距離は歩かせた方が良くと思う。また自分自身の幼少の事を考えると、町内には王寺小学校と王寺中学校しかなかったので、どこに住んでいても王寺小学校・王寺中学校に通うのは当たり前であった。そういうことから、王寺町自体が（面積的に）あまり大きな町ではないので、どこに学校が作られても、大きな問題ではないと思う。
- 校区割りで考えていかなければならないのは、規模もそうであるが、学校と地域との結びつき・連携が大切なのではないか。
- 南小学校は美しヶ丘とスカイヒルズの2自治会と良い連携ができており、また南中学校区は南小学校区に畠田地区が加わって校区になっているが、学校と地域の連携が上手くいけているように感じている。
- このように現在形成されている学校と地域の繋がりを考えながら、校区割りを考えてもらいたい。

○事務局の説明の中では、王寺小学校（王寺北小学校）と王寺中学校の義務教育学校は施設一体型であるのに対し、南小学校・南中学校は分離型がイメージされる。そうになると通学場所が2箇所になることも考慮しなければならない。

●現状の王寺南中学校は（生徒数が少ないことから）教員数が少ないため、1人の教員が臨時免許を取得して複数の教科を担当している。よって、義務教育学校を設立するときには児童生徒の人数バランスを考えて再編してもらいたい。

○児童生徒の人数が多いのが良いのか少ないのが良いのかという話が出たが、現在の南中学校の3年生は開校以来最も少ない46人である。運動会等の学校行事、部活動、生徒会活動を考えると、やはり生徒数が多い方が良い。

○よって、児童生徒数のバランスで校区を区切った案が良いと思う。

●私が南小学校へ赴任した1年目の児童数は173人であった。そして6年目の現在は323人とほぼ倍増した。

●学校はその時の人数規模に応じてベストを尽くすものであり、人数が少ないときは少ないなりの良さを創出し、多いときは多いなりの良さを作り出すものである。

●委員の中で長らく南小学校のPTA役員をしていただいた方がいるので、そのあたりの意見を伺いたい。

○人数が少なかった時は個人がスポットライトを浴び、人数が増えてくれば活気が溢れ、ダイナミックになっていったと思う。

○どちらが良かったかと尋ねられれば、どちらも一長一短があったように思う。これは個人によって感じ方も違う。

●先ほどもあったように、元々は1小1中であったので、全て統合することも考えられなくもない。

●御所市は人口が減少しているため、広い区域であるにも拘らず、1小1中にする動きがある。

●王寺は人口減少が理由ではなく、また町民には現在の2つ中学校が馴染んでいる。

●そういった意味で1校ではなく2校がそれぞれ切磋琢磨するという意味もあって、2つの義務教育学校を検討するという案が出た。

●委員の方々や小中学校の校長で、2校にすることに対する意見はないか。

- 北小学校は 40 年前に王寺小学校から分離した。当初児童数は約 700 人規模であったが、現在は 306 人と半減している。
- 校区の再編で色々考えられているが、ここ数年、児童の通学環境を考え、学校の近くに家を新築するケースが見受けられる。
- こういったことから、義務教育学校の設立を早期段階で周知する必要もあるのではないか。

- 大阪府柏原市でも小中一貫教育を強く打ち出しているものの、分離型であるため効果があまり感じられない。南中校区は分離型ということなので、ここが課題と感じる。
- 個人的には 1 小 1 中の義務教育学校がダイナミックで良いと考えるが、現状を考慮すると 2 つの義務教育学校にするのがより良い形である。
- 私は王寺小学校、王寺北小学校、王寺南小学校、王寺中学校での勤務経験があるが、中でも王寺小学校は伝統があり、地域の繋がりは強く感じるものがある。
- よって校区割りは、人数も大事であるが、地域の繋がりを考慮していくべきであると考えます。

- 今年の自治連合会の会合で「自治連合会として、義務教育学校の設立にあたり、組織を再編しなければならない時がくる」と伝えた。
- 私個人の案であるが、北校区と南校区に別れるならば、2 つの自治連合会に分割したら良いと考えている。そして個々の連合会と PTA 等の組織が連携しながら、住民自治協議会を作り、まちづくりに貢献できればと考えている。
- 地区編成をやり直すことにより、学校との連携を取りやすくことが肝心である。

- 地域からそういう意見が出るのは、非常に心強い。

- 学校行事の人数の話が出たが、義務教育学校になれば子どもの数や教員数が増えるため、学校行事は活気のあるものになるはずである。
- また、小中両方の免許を持っている教員を集めるよう動いている。
- 一体型と分離型は方針次第ではあるが、南小学校・南中学校の校舎が新しいため、分離型でスタートしていきたいと考えている。
- 大阪府柏原市の話も出たが、私も一体型の方が良いと考える。

- 仙台市の私立学校の事例では、校舎の建設が間に合わず、やむを得ず分離型でスタートしたため、一貫教育の効果が見えなかった。
- 東日本大震災の後、一体型の校舎ができると学力向上等の効果が出始めた。
- 校舎が一体型になると、小学校・中学校の先生が同じ職員室にいることとなり、交流も増え、お互いに融合し合うようになる。このことから大きな効果が出てくる。
- こういったことから同時期に一体型でスタートするのが理想であるが、財政的な面もあるので、判断しなければならないところがある。
- しかし近い将来、両校とも一体型にするのが良いと考える。

○2校とも同時に一体型でスタートしてほしい。

- 大きな方針として2校とも一体型にしていきたい。
- しかし南小学校・南中学校の校舎が新しいため、補助金を受ける面積が控除されてしまうので、同時期には難しい。
- 後の案件では、義務教育学校を建設するための国の補助制度に触れる。

## ・学校建設候補地について

○王寺小学校が包蔵地であるという説明は受けたが、王寺中学校はどうか。

- 王寺中学校は山を削って作っているので、遺跡が出る可能性はほぼ無い。

○包蔵地\*の線引きはどうか。王寺中学校も含んでいるのか。

※包蔵地・・・文化財を包蔵する土地を「埋蔵文化財包蔵地」という。

- 包蔵地の線引きは王寺小学校のみである。

○仙台の学校は伊達家の屋敷跡であった。また敷地の片隅には古墳があり、古墳の発掘調査にかなり時間を要した。

○こうしたことから、どこに校舎を建てるかは慎重に検討を重ねるべきである。

●片岡王寺遺跡のことからも、王寺中学校に義務教育学校を建設することが良い案だ  
と思う。

●包蔵地は私の経験上からも校舎建設は避けたほうが良い。

○王寺小学校の跡地は、遺跡資料館等に整備するのも良い。

●文化財の発掘があると一時的に賑わうが、時が経つと閑散とする傾向がある。

●跡地利用の際は、王寺小学校がここにあったモニュメント等を建てれば町民の理解  
を得られるのではないか。

○跡地整備はどこまでやるのか整理をする必要がある。如何に残し、如何に活用する  
かは今後検討していきたい。

○いずれにしても、王寺小学校に義務教育学校を建設するのは難しいと考える。

●運動場の規模も小さいので、難しいと思う。

## ・施設整備に係る国の補助制度 施設一体型と施設分離型

○用地買収の補助金は出ないのか。

●用地買収に補助金は無い。

○ピーク時の人数をこの面積で賄えるのかどうかだが、王寺中学校の用地は高さ制限  
はあるのか。

●王寺中学校の用地は高さ 15m で 4 階建てまで可能。よってピーク時の人数に必要な  
床面積は確保できると試算している。

○用地買収が大変なのではないか。

●用地買収する場所の地目は何か。

○山林。

●宅地や家屋はないのか。

○ない。

●地権者は何人か。

○1人。

●南の義務教育学校は当面分離型でいく話があった。そうなれば南小学校では従来どおり、小学課程の児童を受け入れることになる。

●南小学校は1学年3クラス規模で建設されており、普通教室は18教室しかない。

●そのうち1教室はパソコン教室に転用しており、また2教室は学童保育、特別支援学級1教室、資料室として1教室使用している。

●こうしたことから、南小学校が受け入れきれない児童数が来た場合のことを考えなければならぬ。

○現在は「6・3制」であり、「5・4制」を採用すれば現在の校舎でも対応できるが、施設整備については、現在の保有面積を控除されず補助金が確保できるよう県を通して文科省との協議を踏まえ、方法を検討していく。

●できるだけ早く文科省（初中企画課）へ相談に行った方がよい。県を飛び越えてもよい。

●義務教育学校は文科省として推進したいはずなので、積極的に行くべきである。

●分離型であっても、現行の「6・3制」よりは「5・4制」等の方が効果的と考える。

●「4・3・2制」もある。4年生までは具体的な授業、次の3年は中学型の授業、そして最後の2年間は高校型の授業を行っている。

- 南中学校が王寺中学校よりも生徒数が多い時期があり、その時の普通教室は15教室。逆に1番少なかったときは、1フロアの教室を使うことがなかった。
- よって南小学校のキャパシティが不足した場合、南中学校の校舎を使い、「5・4制」や「4・3・2制」を実施する方が効果的であると思う。
- 小学5・6年生の発達は昔と随分変わっているので、できるだけ教科担任制を導入したい。
- そのためには教育課程の特例校を申請し、特色のある教育を行えば、効果も上がると思う。
- 部活動においても子どもの数が多いと活気づく。可能ならば小学課程の教員も部活動に携わってもらえれば、部活動の数も増やす事が可能となる。

●南小学校と南中学校は校舎が離れているため、教員が日常的に学校間を移動するのは避けたいと考える。小学課程の教員は南小学校の校舎で勤務し、中学課程の教員は南中学校の校舎で勤務できるような教育課程を考える事が大事ではないか。

- 原則論では、義務教育学校になれば小学校の教員と中学校の教員に分けることはできない。
- また義務教育学校や小中連携教育においては、特例でなくても学習指導要領の配当を組み替えて良いこととなっている。
- 小・中学校の教務経験者達でプロジェクトチームを作り、他自治体の小中一貫校のカリキュラムを参考に、王寺町に則した中身の組立を考えていかなければならない。

●英語の授業が小学課程に入ってきているが、小学校の英語教師の免許は現行では作られていない。そうすれば中学校の英語教師が小学校で教えるという流れができ、自ずと「5・4制」や「4・3・2制」になっていくものとする。

●そういった意味からも、「現在の校区に当てはめた案」が有力になってくる。

- 小学校の英語教員は、中高の英語教員の免許があればできる特例措置がある。また他の教科も、中学の免許があれば小学校が教えられる特例措置がある。
- しかし中学校の教員免許があっても、小学校の担任はできないことになっている。  
(現在、特例措置検討中)
- 次の指導要領の大綱が8月1日に発表される予定となっている。その中で英語は小学3年生から始まり、小学5・6年生は現在の中学の英語になり、中学の英語はオールイングリッシュとなる。
- 王寺町の小中の教員が一体となり研修を受けてもらいたい。

○学校行事では、9年一体でやっているところもあれば、4・3・2で区切っているところもある。また部活動も5・6年から入部しているところもある。こういったこともプロジェクトチームで検討していただきたい。

●住民に説明する機会を持たなければならないが、その際には御所市や五條市のケースを示しながら、王寺町は如何にソフトランディングしていくかという議論になると考えている。

●私はこの懇話会の話聞いたとき1校の義務教育学校にするものと思ったが、2校の義務教育学校ということで、住民の理解も得やすいものと考えている。

●補助金の話があったが、文科省は総務省や財務省を動かさないため、かなり難しいと考える。

●過去に吉野で災害が起こった際に、文科省に折衝を行ったが無理であった。

○阪神淡路大震災の経験を踏まえ、宮城県で震災復興の際に文科省が補助金を出すケースが出てきている。

○最後に何か課題となるようなことはあるか。

●今後の課題として、一体型と分離型の教育課程をプロジェクトチームで議論していくことである。

○効果的・効率的なカリキュラムを組むために学校教員と教育委員会で検討をしてもらいたい。

○現在の老朽化した校舎をそのまま使うのは、子ども達がかawaiiそうである。学びの環境を充実させるためにできるだけ早く次のステップに進みたい。

○そのためには、全町的なプロジェクトで進むことが必要である。またタウンミーティングで住民の方々にも議論いただくことになるが、懇話会の委員の皆様には義務教育学校設立にご賛同いただき、今後進めて行きたいと考えているが、如何か。

●了承

○次回の懇話会は、王寺町文化財保護審議会の答申結果や、これまでの議論をまとめたタウンミーティングの説明資料などを案件に、9月末か10月上旬で後日、日程調



整させていただきます。